

Anchor

— アンカー —
Monthly Graphic Journal

Vol.410

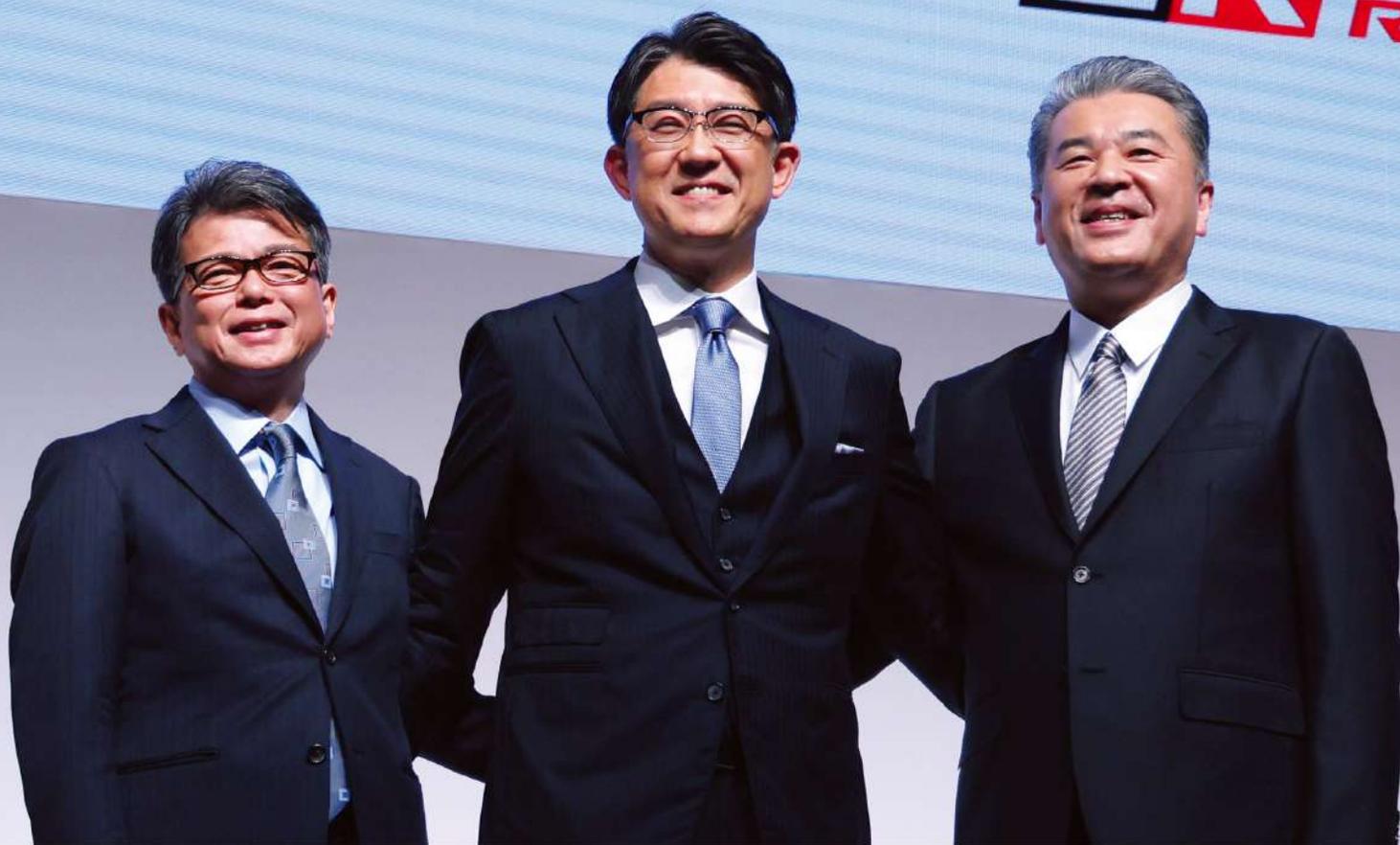
2023.

6

●特別企画 地域再生—企業は人なり— ●起業家たち—その足跡を追う ●~Anchor's Person~

TOYOTA

GR TOYOTA Racing



表紙写真：経営方針説明会で撮影に応じるトヨタ自動車の佐藤恒治社長（中央）ら

巻頭特集 坂本龍一の訃報に寄せて——その軌跡を追う

Current Topics
Column

ダイバーシティ・マネジメント / M&Aのススメ
先達の道標 / The Call of Muse. / 句を楽しむ



株式会社 プロフェッショナルディベロップメント
代表取締役社長

奥村 聡

オーストラリアにて経営と教育の2つの修士号を取得した研究者の顔と、法人経営を11年しつつ、新たに研修会社を設立した起業家の顔を持つ奥村社長は、「私は本当に運が良い。最高の仲間に出会えました」と、自身を振り返った。これまでに多くの困難を乗り越えた経験は、企業研修の財産だ。知行合一——知識と体験を両輪とした社長の研修は人気を博している。その根底には、愛する静岡とオーストラリアへの熱い想いがあった。

(対談記事は*~*頁に掲載)

**「心豊かになる教育で、組織や地域を豊かにしたい。
企業研修は、私の天職だと思っています」**



企業研修・人材育成をはじめ、 教育関連や国際交流など様々な事業を展開

静岡県で人気の研修講師、奥村社長。管理職向け研修や新入社員研修を手掛ける『プロフェッショナルディベロップメント』を経営している。社長は、オーストラリアの大学院にて経営学と英語教授法の2つの修士号を取得し、帰国後に起業し法人化。さらに企業研修部門を分社して2社目を法人化し、教育や研修の専門家として活躍している。本日はタレント・書道家のおさる氏が訪問。社長にこれまでの歩みや事業について、お話を伺った。

——まずは奥村社長の歩みから。これまでを振り返ると、私は本当に運が良いと思います。静岡市に生まれ、公立の小学校、中学校、高校を卒業しましたが、勉強はせず遊んでばかりでした（笑）。ただ、当時から好奇心と探究心は旺盛で、気になることは納得いくまで研究していました。周囲から見ると変な奴だったと思います（笑）。その後、縁あってオーストラリアに行けたのは幸運でした。海外の人と

話すときに本当に気付きが多くて楽しくて。その経験から、将来は「楽しさを教えられる先生になりたい」と思うようになり、オーストラリアの大学と大学院に進学したのです。そしてここでも幸運に恵まれます。渡豪前に塾で働いた経験から「教育だけではない。経営も身に付けなくては」と考えていました。すると「M.B.A.をやらないか」と声がかかり、しかも学費の50%は大学が出してくれるということに。そうして、M.B.A.経営学修士号とM.A.TESOL英語教授法修士号という2つの修士号を取得するに至ったのです。

——幸運に恵まれたと言いますが、そこで踏み切れる行動力が本当に凄いですね。その後はどうされて？

帰国したのは2008年末です。オーストラリアと日本を繋ぎ「豊かな人間性を養い、学びに向かう力を育む」教育を実現したいという思いを抱いての帰国でした。ただオーストラリアに長く居たせいで、日本人に戻るのには苦労しましたね（笑）。現在手掛けている企業の研修は2009年に開始しました。そして2011年に国内では初めて日豪の公立小中学校間のオンライン1on1英語・日本語会話プログラムを成功させま

した。もう今ではZOOMは当たり前ですが、当時オンライン1on1会話は画期的でした。それこそ全国版の新聞やテレビで紹介していただき、どこか浮ついていましたね。まだ若輩の身で「一般社団法人CCCプロジェクト」を立ち上げ、代表理事を名乗り、教育について語る私は相当に生意気だったと思います（笑）。そして案の定、委員会の協力を得られずに、上手くいかなくなってしまったのです。

——誰もそういう時期があると思えますし、それを経て今があるのでしょうか。

ただ、先にも申しました通り私は本当に幸運で、上手くいかないときも多くの仲間が支えてくれました。能力が高く、頼りになる仲間が恵まれたのは大きな財産です。ですから、もう静岡を離れることはできませんね（笑）。もちろん多くの困難もありました……それでも、営業、企画、提案、管理と、実際に経営者として勝負してきたことは、今、研修をする上で大きな財産となっています。よく「塩のしょっぱさは舐めてみないとわからない」と言いますが、困難な経験を通して本当の知識を身に付けられていると感じています。そして今も、最前線で体験しているからこそ研修もできるのだと感じています。

——講師というお仕事は、経営者としての本業があるからこそできるのだということですね。

ええ。講師としてあるためには、自身の経験は本当に大切だと思います。『一般社団法人CCCプロジェクト』は教育に関す

る企画事業を主軸として、教育プログラム開発、地域産業の教育動画制作、訪日インバウンド教育旅行支援、日豪パートナーシップイベントの企画運営、日豪間の教育提携、教材開発や教科書監修等を手掛けております。産学官の連携や日豪間の渉外をするため、もう困難の連続です。私自身が、上手くいかないことがあった時に、それをどう上手く進められるかの工夫を日々実践しているからこそ、職場にて即実践できる研修が好評を得ているのだと思います。——ご自身の経験があるからこそ、講師としての言葉に重みが出るのでしょうか。ところで、今回『プロフェッショナルディベロップメント』という会社を設立されたのはどのような経緯があたりで？

一言で言うと、わかりやすくするためです。『CCCプロジェクト』の主役は子供たちです。教育を通して心豊かに育ててほしいというビュアな願いから始まりました。ところが管理職や経営者は、そんなにビュアではられません（笑）。売上を伸ばし、経費を削り、利益を確保すると共に、離職を防止し、法令を遵守し、後輩・部下を育成します。お金・ひと・もの・時間という限りある資源から常に「現状における最善の選択」をしなくてはなりません。世の中のあるべき姿を探究する子供たちへの教育とは異なります。顧客の求める価値やニーズに大きな違いがあるため、わかりやすく法人を2つに分けました。

——社名にも何か意味を込めておられ

て？
あらゆる階層・業種・職業人に必要な「プロフェッショナルとしての能力開発」の英訳であり、「私たちは教育のプロフェッショナル集団として、その付加価値を顧客に提供いたします」という決意を込めています。関係各所から「社名が長過ぎるよね」



「奥村社長は、お話しも面白く、人を惹きつける魅力にあふれていて、時間を忘れてしまうような対談でした。多くの困難を経験してきたはずなのに、笑顔は絶えず、心遣いを忘れない。そういう『人たらし』の社長には頼りになる仲間がたくさん居て、これからも一緒に静岡県の未来を良くする様々な事業を展開されるのだと思います。これからが楽しみでなりません。人気の社長の研修、ぜひ一度受講してみたいです！」 おさる・談

と言われていますが、もう少しこの社名で踏ん張りたいと思います（笑）。——企業研修をされるにあたって、社長が大事にしていることは何ですか。

そうですね……大事にしていることは20個くらいあります（笑）。まずは、徹底した準備です。研修は準備9割ですからね。そして研修を「なぜ行かうか、どこへ向かうか」を明確にします。参加者を惹きつける、また惹きつけ続ける仕掛けも用意します。体験や探究から気付きを得て理解を深めるためのワークやディスカッションは研修の50%以上を占めるよう設計します。職場にて実践可能であることや、能力を身に付ける流れを示すことも大事ですね。参加者が、現状を振り返り、再考し、修正する機会を設けることで、客観的な自己評価を促します。研修は参加者のニーズやスタイルに合わせて調整し、継続的かつ段階的に成長するよう体系として立案します。昨今はオンライン研修の依頼もありますが、私は、正直オンライン研修が好きではありません。年齢や役職の垣根を越えて仕事の取り組みについて深く話せる機会なんてなかなか無いのに、もったいないな、と思うのです。

——社長は本当に楽しそうにお話しされますね。

ありがとうございます！ 仕事も研修も本当に楽しいです。明日は研修だと思おうと、わくわくします（笑）。新入社員研修、管理職向けマネジメント研修、統率力や指導力向上の研修、営業やマーケティング研修、コミュニケーション力強化研修と、日々、多様な研修に追われていますが、そのどれも良い研修もする自信があります。日本語を話せるからといって、日本語を教えられるわけではありません。「できる」と「教える」は全く別物です。企業の人材



育成や能力開発は、「教える」プロフェッショナルである私共にお任せいただけたいと思います。

——社長のように、情熱を持って取り組んでくださる方であれば、皆様安心してご依頼できることでしょうか。最後に、今後のビジョンを伺います。

オーストラリアやアメリカの企業を視察する研修をしたいです。海外に行くと、日本の現状も素晴らしさもわかります。経営者のみならず、管理職や若手社員と一緒にいきたいですね。海外の良いところは素直に真似て吸収し、現地の人たちとの交流から新しい事業を生み、グローバルなマインドを持つ仲間を増やしていきたい。もちろん、最高に楽しい視察になるよう全力を尽くします！ そして、オーストラリアやアメリカの経営者も静岡に来てほしいですね。ここ静岡に私共が居ることで、「社会が豊かになった」と少しでも思ってもらえるように、これからも精進いたします。（2023年4月取材）

静岡とオーストラリアの架け橋に

▼静岡とオーストラリアを結ぶ教育文化交流にも力を入れている奥村社長。今年は関係団体や協会、行政を巻き込んで「オージーデー（オーストラリアの日）」というイベントを11月と2月に企画しているという。「AFL（オーストラリアンフットボール）体験や食の交流を通して、日豪間の友情を育むことを目的としており、最高に楽しいスポーツ&フードイベントになりそうだ。

▼「オージーデー」を成功させた後は、静岡にAFLの社会人チームを設立すること、また「オージーデー」を年に一度のお祭りにする、という夢もあるそうだ。オーストラリアへの企業視察やオーストラリアからの教育旅行の誘致も企画しているという。社長は、「国籍を問わず、子供たちから大人まで、たくさんの人に笑顔になってもらえたら」と、愛する静岡の人たちと共に最高に楽しい夢の実現に向けて、今日も準備に奔走している。

株式会社 プロフェッショナルディベロップメント

静岡県静岡市駿河区稲川 3-8-3
URL : <https://pro-d.co.jp/>